令和四年十一月号発行【全国版】

読売ＳＤＧｓ新聞

私たち人間はいろいろな環境の中で過ごしていて、この環境のおかげで安心で安全な生活を送ることができています。環境を守ることは私たちの未来を守ることにつながります。環境を少しでもよくして、みんなが笑顔で楽しくすごせるといいですね。

読売SDGs新聞

2022年（令和４年）11月発行

企画・制作　読売新聞教育ネットワーク

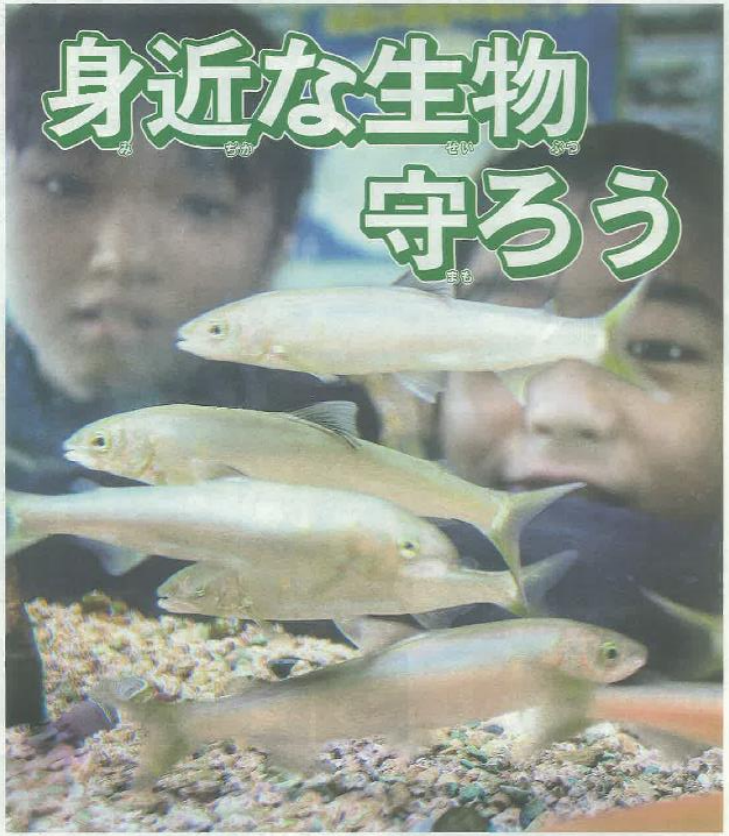
〒100-8055　東京都千代田区大手町１の７の１

☎03-3242-1111

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

読売新聞は持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を支援しています。

身近な生物守ろう



「あそこだ」「いたいた」。森の中を流れる役勝川の中流域で、鹿児島県の奄美市立住用小学校の児童たちが声を上げました。体長約10センチのリュウキュウアユが、胸びれ近くの金色の模様をきらきらと光に反射させながら泳いでいます。

この日の観察学習には、1年生から6年生までの児童17人が参加しました。水中めがねを着け、ゆっくりと瀬から水の中に入り、アユを探します。テナガエビやハゼなどもいます。児童らはアユを観察しながら、古里への愛情もはぐくんでいます。

奄美市がある奄美大島は２０２１年、世界自然遺産に登録されました。絶滅危惧種に指定されているリュウキュウアユなどの固有種は、環境破壊や地球温暖化などの影響で、個体数が減少したり、生息地を追われたりしています。気候変動への対策は、ＳＤＧｓの目標の中でも、私たちがすぐに取り組まなければならないことです。

地球の環境を守るには、まず自分が暮らしている地域の環境について考えることが大切です。この新聞で紹介する学校や地域、会社などの取り組みを参考に、みなさんも、自分のできることから始めてみてください。

（２ページに続く）

ＳＤＧｓ（エスディージーズ）　2030年までにすべての人が住みやすい世界を作ろうと、国連が掲げた17の目標です。「Sustainable Development Goals（サステナブル　ディベロプメント　ゴールズ）」の略で、日本語では、「持続可能な開発目標」といいます。貧困や教育、環境保全、男女の平等など17のゴールごとに、色のちがうロゴがあります。

くらしにSDGs

じぶんごとからはじめよう

みんなの力でよりよい未来をつくりたい。読売新聞は、同じ思いを持つ企業の人たちと一緒に「くらしにＳＤＧｓ」を展開しています。テーマは「じぶんごとからはじめよう」。この新聞を読んで、みなさんがはじめたＳＤＧｓのアクション（活動）をお寄せください。身の回りの気になっていること、何でも調べて、動き出してみませんか。みなさんのアクションは、読売新聞のサイトや紙面で紹介していきます。

3ページ　会社のSDGsを応援　日本証券業協会

4ページ　ごみをなくすには　芙蓉総合リース

5ページ　ネットで変える未来　JPRS

6ページ　環境に優しい家　住友不動産

アユすむ川 奄美の誇り

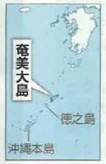
リュウキュウアユ

鹿児島県・奄美大島と沖縄県・沖縄本島のみに生息しています。環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されています。沖縄では1970年代後半に一度、絶滅したとされています。奄美大島でも全域にいましたが、河川工事などの影響で役勝川など一部の川にしか生息していません。本州のアユより小ぶりで、うろこが大きいのが特徴です。

役勝川での観察に出向く前、奄美市立住用小学校の3年生から6年生の児童14人は、リュウキュウアユの生態について学びました。講師は奄美大島自然保護協議会ヤジ分会の養殖技術者、又野峰誓さん。

河川工事や流域の伐採、気候変動に伴う自然災害などで個体数が減少していることを説明した後、又野さんは「ここにしか生息していない生き物は絶滅すると元に戻せない。今の環境を守ることが本当に大切です」と話しました。

リュウキュウアユが生息する役勝川や住用川だけでなく、小学校の近くには国内第2の規模のマングローブ群生林や絶滅危惧種のアマミノクロウサギ、固有種のルリカケスなどが生息する森があります。



リュウキュウアユはかつては何万匹もいましたが、１９９８年には、役勝川で１５００匹程度にまで減ってしまいました。山美奈子校長によると、「このままでは絶滅してしまう」という危機感から、２００６年に同小の保護活動が始まりました。

児童は総合的な学習の時間にアユについて学び、毎年夏には役勝川で観察し、アユの産卵時期にあたる11月の前には川の整地作業を行います。学校近くのアユの養殖場から譲ってもらったアユを水槽で飼い、世話もしています。

こうした活動が認められ、21年には、野生生物の保護に功績のあった団体や個人に贈られる功労者表彰で文部科学大臣賞を受賞しました。

児童は、観察学習で学んだことを作文にまとめ、地元のラジオで1人ずつ発表するなど活動の場を広げています。7月下旬に沖縄県・西表島に「奄美こども環境調査隊」（奄美市教育委員会主催）として派遣された5年の橋口ゆいさんは「自分たちの活動範囲を広げて、他の川でもアユが生息できるようになれば」と笑顔を見せてくれました。山校長も「自分たちの活動がＳＤＧｓにつながっていると実感し、誇りと郷土愛を持ってほしい」と願っています。

この秋、役勝川下流域で整地作業が行われました。住用小学校、住用中学校の児童・生徒と保護者ら35人が参加。川底の石を取り除いたり、熊手のような道具で砂利をならしたりして、リュウキュウアユの産卵に備えました＝写真は住用小提供＝。

学習のヒント

調べよう　やってみよう！Action

この新聞には、ＳＤＧｓ学習のヒントがたくさん書かれているよ。「調べよう」「やってみよう！」のマークを手がかりに、探してみよう。みんなが取り組んだことを教えてね。（応募方法は８ページ）

調べよう

日本にはリュウキュウアユ以外にも、絶滅が心配される植物や生き物がたくさんいます。レッドリストを調べ、絶滅を避けるための活動を調べましょう。

いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。

1.5℃の約束

やってみよう！Action　8ページ　課題⑤

「いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」

国連では、世界の平均気温の上昇を産業革命前から1.5度に抑える運動を展開しています。国連に協力する報道機関の集まり「ＳＤＧメディア・コンパクト」に参加している読売新聞社でも、温暖化を防ぐみなさんの活動を応援していきます。